

## サンワ・リノテックがお届けするお得な記事満載の情報紙。 きっとお役に立ちます。

### ユーザー様訪問



立命館大学 政策科学部  
博士(政策科学)  
教授 森 裕之氏

前号は「立命館アスベスト研究プロジェクト」の森裕之代表(立命館大学政策科学部教授)から、アスベスト問題に取り組んだ経緯、阪神淡路大震災と東日本大震災のアスベスト対策などについて伺いました。

今号は石綿健康被害基金の在り方、アスベスト除去に携わる作業員への配慮、海外のアスベスト対策、立命館大学の取り組み等について意見を話して頂きました。

**司会** 石綿の被害者に対して国はどのような対応を取っていますか。

**森** 事業主と自治体でお金を積み立てる「石綿健康被害救済基金」があります。想定されていたほど被害者が出て来てなくて医療費、療養手当が使われず、毎年度黒字になっています。その額がどんどん大きくなってきています。お金が余っていたら減らせという声が出てくるでしょう。

私は減らすべきではないと思います。震災が起こった時にその基金を活用する、あるいは建物を解体する時のチェックの仕組みに活用する、廃棄物の処理に使って2次被害、3次被害を防止するなど、そういう工夫を考えるべきだと思います。

**司会** 今後被害者が増えてくることが予想されます。

**森** 「石綿健康被害救済基金」が始まってまだ5年しか経っていません。現状はアスベスト被害者に対して金銭的な援助をする救済で、補償ではなく慰謝料的なものは含まれていません。払われているお金は医療費の自己負担と月10万円程度の療養手当です。

一方「公害健康被害補償法」がありますが、それに比べると金額がかなり低い。公害健康被害補償法は補償なので慰謝料的な側面が入っています。補償額も大きい。ただし賃金を基本にしているので男女間の格差があります。それにしても「石綿健康被害救済基金」より高額です。

国の論理は、石綿は全事業主が経済的利益を受けてきたからお金を出ささいという考えです。公害健康被害補償法は、例えば電力会社や鉄鋼会社が大気を汚染し、それで呼吸器疾患を引き起こした場合、その因果関係に着目しています。「石綿健康被害救済基金」をなぜ補償法にしなかったかという、因果関係が特定できないという考えです。ところが公害健康被害補償法は因果関係を明確にしているわけではありません。鉄鋼、電力、化学などの産業からお金を集めて補償の基金にしています。しかし補償は被害のあったエリアの企業のお金だけではなく、全国の企業から集めたお金です。例えば東北にある電力会社のお金を、関西の特定された地域の被害者の保証金に当てるのはおかしい。それを考えるとアスベストも一般的な因果関係性は考え得ると思います。全事業主がお金を出す曖

昧なやり方ではなく、もう少し丁寧に見ていかないと業種間の不公平が出ると思います。

今後アジアでも同じ問題が起こり得ると思います。現在世界のアスベストの使用量は昔とほとんど変わっていません。半分はアジアです。中国、インド、インドネシア、タイ、マレーシアでたくさん使われています。労働状況は以前の大阪の泉南地域の工場と同じように劣悪です。アジアで被害が顕在化してくるのは間違いありません。

アジア地域に対して日本が経験と技術をどうやって伝えていくかが課題です。代替品の開発は高度な技術力が必要ですが、日本は代替品の開発が先行しています。アスベストは建材に圧倒的に使われ、いずれ解体されますが、アジアは日本より粗雑ですからサイクルが早い。解体、廃棄の時にどうすれば被害を未然に防げるのか。また建材をつくっている労働災害を防ぐのか。必要な情報を住民に伝えるために、国をどのように動かしていくのか。それらは日本がアジアに果たす役割ではないかと思います。

**司会** 森先生は地方財政学をずっとやってこられていますが、アスベスト公害問題の補償として「石綿健康被害救済基金」があり、黒字分を有効に活用すべきだということですね。ところでアスベストを除去している現場を見られたことはありますか。

**森** アスベストはないのですがロックウールの吹付材を除去しているところを見たことはあります。

**司会** 当社は吹付アスベストを除去する時に、アスベストを外に出さない負圧集塵機などのレンタルや販売を行っています。現場で作業員は防護服を着てマスクを着用していますが、100%安全ではありません。安全にできる方法がありますか。

**森** マスクを安全に装着するのは難しいし、服の取扱いも同様です。そのために、石綿障害予防規則では特別教育があります。それをきちんと守ることが重要だと思います。

またアスベストとは何か、そういう基本的な説明があったほうがよいと思います。アスベストの被害を受けるとどうなるのか。それを理解できれば予防することがいかに大事か伝わります。そういった教育は絶対必要です。そうなれば、性能の良いマスクを使わなければいけないし、装着は慎重にしなければいけない。集塵機は精度の高いものを使わなければいけないという意識が高まると思います。いろんな意味の教育が必要です。それが一番大事だという気がします。

**司会** 当社が発行している「瓦版」はアスベストをメインにして、得意先などに啓蒙、注意喚起が大事だと



仮置き場での建材処理

(裏面に続く)

(表面より) ということで始めました。アスベスト工事の最前線は、発注金額も自由競争で消耗品は法のぎりぎりのところで値段の競争になっていて、当社の願いとは逆の流れになっています。森 やはり予防が重要だと思います。日本の解体現場で石綿障害予防規則を厳格に守っているところは少ない。それが実態だと思います。申告制ですから経済的論理でそうなるに決まっています。

安全を守る姿勢ができておれば、競争することも必要だと思います。安全を守るとはなんなのかというと、作業する時に性能のいい集塵機やマスクを使うことです。今回の環境省が行った東日本大震災の調査では、すごい数の青石綿が出ているところがあります。それは集塵機がしっかりしていないからです。集塵機やマスクはできる限り品質のいいものを安価で提供することが必要だと考えています。

民間の解体現場はこれからピークを迎えます。きちんとした解体の現場にして被害が出ないようにするには、国や自治体を動かさなければいけません。

アジアでもアスベストは危ないという認識が急速に高まっています。アスベスト建材を買うのは貧困層ばかりで、裕福な層は買いません。完全に二極分化しています。今後アジアでも解体は安全にしろという話になるはず。しかし優れた集塵機はありませんし、防塵マスクなんかは見たこともありません。それにきちんと対応する取り組みが必要です。現地で合併会社で技術提携するケースも出てくるかもしれません。

**司会** 日本より先進国のアメリカはどんな状況ですか。

森 アメリカはまだアスベストを使うことを禁止していません。米軍基地のアスベスト対策はアメリカ国防省の予算のかなりの部分を占めています。ただ使用量は80年代前半から相当落ちています。現在裁判で1万社くらいが被告になっているような状態です。ヨーロッパは禁止措置を段階的にとっていくことで80年代前半に減らしました。北欧は70年代後半に減らしました。

日本は1990年代のバブル時に建材の需要が増えてアスベストが大量に使われました。減り始めたのは90年代後半以降です。2006年から使用禁止になりましたが、その頃の建物は建てられてまだ約20年です。日本のアスベスト対策はまさにこれからです。

**司会** 吹付けアスベストは解決しているのですか。

森 国は1,000㎡以上の建物については除去しなさいということでチェックをしています。しかし1,000㎡以下のところは安全だという意味ではありません。国は一気にやるのは大変だということです。1,000㎡以下のところをこれからどうするかということを考えています。ただあまりにも量が多過ぎて、どこから手をつけたらいいかわからないのが実情です。民間の吹付けもまだまだですし、成形板は手つかずの状態です。

**司会** 毎年アスベスト対策環境展があって出展していますが、一般の関心が薄れているのか、毎年規模が縮小しています。注意の喚起が必要だと思いますけど。

森 立命館大学が主催で今年の2月に仙台でシンポジウムを行いました。パネラーは現地の建設会社、診療所、仙台市の自

治体の担当者、韓国のアスベスト研究センター、被害者の会のメンバーなどです。こうしたシンポジウムを通じて、一般の人にもアピールしていきたいと考えています。

**司会** 立命館大学の東日本大震災に対する取り組みについてお話しください。

森 立命館大学は東日本大震災に対してどういう貢献ができるのか、プロジェクトを出しなさいと全学に呼びかけました。我々はアスベスト問題と避難者の受け入れをテーマに出しました。現地の問題は良く取り上げられますが、避難者が他の自治体に来た時にきちんとした受け入れができるのかは取り上げられません。

我々は現地から遠いところにいる人間として、貢献できることを提案しています。例えば大阪市に避難者が来た場合、生活保護が問題にされます。生活保護の申請をどうするのか。それは大阪市の問題なのか国が措置すべきことなのかということがあります。その他、介護保険などの問題もあります。どこが責任を果たすべきかを研究しています。全て地方自治体の負担になると受け入れがうまくいきません。府県や国がどういう役割を果たすべきかはっきりさせるべきです。京都にいる我々がそれぞれの専門を活かして何ができるかに取り組んでいます。

立命館大学は、社会問題があった時にどういう貢献ができるか、そういう意識が高く、果敢に取り組んでいこうという先生も多くいます。どれだけ貢献できるかはわかりませんが、私もできるだけやろうという意識を持ってやっています。

**司会** ありがとうございます。弊社も東日本の復興に向け、貢献できるように努力いたします。今後もグローバルな角度からアスベスト関連業界へのアドバイス、情報提供をよろしくお願いいたします。

## セミナーのご案内

### ① 第5回グローブバックセミナー

(東京ビッグサイトで開催のアジア最大の環境展期間中です)

日時:平成24年5月23日(水) 14:00~16:30(受付13:30~)

会場:TFTビル東館9階905号研修室(ゆりかもめ国際展示場正門前駅徒歩1分)

### ② 第6回グローブバック及びHi-Jet ARC工法のセミナー

日時:平成24年6月29日(金) 13:00~16:30(受付12:45~)

会場:OCAT 4F(なんば駅より徒歩5分)

※詳しくは弊社ホームページをご覧ください。



粉々になった石綿含有建材

## 編集後記

前回に引き続き、立命館大学の森教授にお話を伺いました。

今号では、国の取組み、アスベスト除去に携わる作業員への配慮、アスベスト使用の問題点や日本の役割、立命館大学の東日本大震災に対する取組み等、盛りだくさんの内容です。

アスベストがもたらす健康被害は連日マスコミで報道されています。一人ひとりが認識を持ち安全で快適な生活を送れるように、これからも引き続き瓦版で情報を発信していきます。(文責:寺嶋)

### 発行

作業現場の快適のために——  
レンタル、販売から工事施工まで

Sanwa Renotech

サンワ・リノテック株式会社  
www.sanwa-renotech.com

アスベスト サンワ で検索できます

〒551-0033 大阪市大正区北恩加島1丁目17番4号  
TEL06(6551)0024 FAX06(6554)1057  
東京営業所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-16-2-702  
TEL03(6912)8292 FAX03(6912)8293